

主催 京都大学経済学研究科上海センター 協力 京都大学上海センター協力会

※ 当日、上海センター協力会では、13:00-13:45 に法経総合研究棟 2 階大会議室にて 2005 年度総会を開催します。会員の方はよろしくご参集ください。

+++++

## 上海センター・ブラウンバッグランチ(BBL)セミナーのご案内

### 1)第 3 回 人民元切上げが中国経済に及ぼす影響

講師 村瀬 哲司 京都大学国際交流センター教授

日時 2005 年 5 月 9 日 (月) 午後 12 時 15 分～13 時 45 分 (食事持ち込み可)

場所 法経総合研究棟 3 階 311 教室

### 2)第 4 回 中国経済の行方・再考

講師 京都大学経済研究所 上原一慶教授

日時 2005 年 5 月 18 日 (水) 午後 12 時 15 分～13 時 45 分 (食事持ち込み可)

場所 法経総合研究棟 1 階演習室 107

### 3)第 5 回 中国における都市・農村間の教育格差

講師 京都大学大学院農学研究科 沈金虎 講師

日時 2005 年 6 月 7 日 (火) 午後 12 時 15 分～13 時 45 分 (食事持ち込み可)

場所 法経総合研究棟 1 階演習室 107

~~~~~

## 現代中国の政治経済学(1)

京都大学教授 山本裕美

### I はじめに

現代中国の経済学者達は度重なる政治変動に如何に対応して生き延びてきたのだろうか。ここでは特に欧米に留学した学者、鄧小平の経済改革に影響を与えた経済学者に焦点を当てて論じてみたい。

### II 近代経済学とマルクス経済学

#### 1 北京大学教授達の経済学に関する意見書

毛沢東の指示した「百家争鳴、百花齐放」の時期に北京大学の陳振漢、徐毓楠、羅志如教授、中国科学院経済研究所の巫宝三教授、政府部門の谷春帆、寧嘉風教授は「当面の経済科学工作に関する我々の幾つかの意見」を公表した。この 6 人の教授は全員欧米留学組であり、近代経済学者であったのである。この意見書の主たる内容は以下の通りである。

1 つはブルジョア経済学の批判的摂取問題である。この問題では彼らはケインズの乗数理論、近代経済学の限界概念は社会主義経済にも適用できることを主張した。またブルジョア (数理) 統計学の標本理論、正規分布、時系列、相関関係等の概念は有用であると論じた。

次に提起した問題はマルクス・レーニンの經典著作への対応である。經典著作を金科玉条目として神の如く崇拜し、マルクスの絶対窮乏化理論の誤りを正さない態度を批判したのである。

この意見書は基本的には陳教授が草案を書き、その他の 5 人が修正したものである。資料には第 3 次稿まで収録されているが、新しい原稿になればなるほど彼らの主張は弱体化

していることが読み取れる。

この意見書によって彼等は批判されて右派のレッテルを張られ、失脚したのである。この6人のうち失脚後の運命が比較的詳細に判明しているのは巫教授である。彼は江蘇省句容出身で1932年清華大学経済系卒業後、ハーバード大学に留学してシュンペーターの弟子となり、48年経済学博士号を取得した。博士論文は中国の資本形成と消費支出に関するものであった。帰国後中央研究院社会科学研究所研究員となり、1942年に編著『中国の国民所得1933年』を出版している。これは中国最初の国民所得の推計である。新中国建国後中国社会科学院経済研究所副所長になったが、この意見書のために右派として批判され、失脚した。1979年以降は名誉復活して経済研究所顧問、中国経済思想史学会長、全国政治協商会議第5、6、7期委員等を務めた。そして1999年2月1日94歳で死去した。

#### ①ブルジョア経済学の批判的摂取問題

「現在唯心主義の方法を開放することを提出する人がいるけれども、事実上一般的な了解は更に有効な批判のためであることである。経済学界では我々もまたケインズ経済学説のような資産階級に重要な経済学説の紹介を既に少し紹介し始めたことは、理解と批判のために過ぎず、このようなことから幾つかの有用な概念や分析方法を提出できる人はいないのではなからうか。例えばケインズの“乗数理論”は一種の数字概念に過ぎず、我々の投資効果の分析に使用できるのではないだろうか。またブルジョア経済学の中で常用される“限界概念”は分析道具として使用できるのではないだろうか。特に統計学のような部門の方法科学は、社会現象の科学研究に対して普遍的な重要性を持っているが、現在ブルジョア統計学には選択理論、正規曲線、時系列、相関関係等々のような多くの方法概念があるが、同様に応用して我々の社会経済現象を分析できるのではないだろうか。但し、諸統計の他を一瞥すると我々が学び教えるところの統計は、加減乗除と簡単な平均数を除けば、その他の内容は少しも無く、これにより極端に枯れた単純で乏しいものに過ぎない。我々が誇大に学問の階級性を過分に誇大化し、甚だしきはあるものに対しては理解できないし、接することができないものとし、また資産階級のものは草木皆兵の感があり、一切の学問は接する前に草木皆兵の感があるというのは一筆で抹殺するのはどうであろうか。」

#### ②如何に經典著作に対するかという問題

「現在の空気は經典著作上の一字一句を全て金科玉条となし、引用解釈するだけで逐字逐語を述べ、暗誦し、あるいは注釈訓詁を施し、甚だしきは排校の誤りあるいは翻訳上の誤りも全て詰屈聲牙（きつくつごうが）の訳文であるとして神としてこれを敬うならばどこで精神の実質を会得できようか。我々はマルクス・レーニン主義の全ての經典著作について一つの疑問も持たずに厳肅に真面目に学習すべきであるが、その目的は經典著作者達の思想、観点、方法を理解することにあるのであって字句を理解するのではない。これらの著作の本質的なものを掌握することにあるのであってそれらの枝葉末節を掌握することではない。しかし多くの經典著作は百年以前に書かれたものであり、百年來の事物についてはその大部分を予見しているに過ぎず、その微妙なところを見透かすことはできずに趨勢を予見しているに過ぎず、年月時において先を占うことはできず、十月革命が、工業化が遅れたロシアで勃発したことはその明らかな事例ではないか。しかし、マルクスとレーニンは著作そのものであると信じて疑うものはいないが、マルクスの著作は全て死後出版されたものであり、どうして一字一句が珠玉でありえようか。しかるに我々はここにおいてどれくらいの年月誰も絶対貧困論に対する疑問を公開提出しなかったのだろうか。」

#### 2 馬寅初北京大学総長の受難

馬寅初（1882－1982.5.10）は中華民國の著名經濟学者で建国後帰国して1951年北京大学総長になった当時中国が生んだ最高の經濟学者であった。

彼の経歴は以下の如くである。浙江省紹興の出身で 1906 年に天津北洋大学を卒業した。専攻は鉱業冶金学であった。1910－14 年に米国に留学してエール大学で経済学修士を取得して更にコロンビア大学で経済学博士を取得した。彼の博士論文は『ニューヨーク市の財政』であり、この論文は大学の教科書として用いられたという。

彼の指導教授はセリグマン教授 (Edwin R. A. Seligman) (1866－1939) であった。セリグマン教授は米国最初の経済学講座のマクヴィガー記念講座教授となり、米国経済学会を創設し、初代会長となっている。主著には *The Shifting and Incidence of Taxation*, 1892、*The Economic Interpretation of History*, 1902 があり、後者は河上肇教授が翻訳して『新史観』という表題で 1905 年に出版されている。

彼は 1915 年に帰国し、1916 年に北京大学法科経済門教授に就任、その後中央大学・上海交通大学・重慶大学教授を歴任した。1929 年国民党南京政府立法院財政委員会・経済委員会の委員長となり、1935 年国民政府立法院立法委員兼財政委員会委員長に就任した。ところが 1940 年彼は国民党の財政政策を批判したために逮捕され、投獄されたのである。42 年に釈放されて、1 年軟禁され、43 年私立重慶北碚立信会計学校教授となった。48 年に出国して香港に在住した。49 年に周恩来の要請で帰国したのである。

彼は毛沢東の「百家争鳴、百花齊放」方針の下に「新人口論」(1957.7.5『人民日報』全文掲載)により「中国のマルサス」と批判され失脚した。彼の人口抑制策は毛沢東の人手が多いことこそ経済発展の本であるという人口資本論に反するものであるという理由で批判されて失脚した。当時康生(後の 4 人組の 1 人)は「馬は馬でも馬克思(マルクス)の馬ではなく馬爾薩斯(マルサス)の馬である」と罵倒したという。

失脚中馬教授は 1963－65 年に中国の農書研究に励み、生涯最大の 100 万字の著作『書』完成した。しかしながら文化大革命中に紅衛兵が彼の自宅に乱入してこの原稿は彼の目の前で焼かれたという。彼のこの研究はこれで完全に失われて彼の死後公刊された全集にも収録されていないのである。学問に無知な少年紅衛兵の愚かな破壊行為により貴重な研究が永久に失われたのである。

1979 年に彼は名誉回復されて、北京大学名誉総長に就任して、『新人口論』は北京出版社から出版された。更に 1981 年 2 月中国人口学会名誉会長となり、『馬寅初經濟論文集上、下』が北京大学出版社から出版された。彼は 1982 年 5 月 10 日死去した。享年 101 歳であった。

彼の全業績は『馬寅初全集』(全 15 巻)として編集されて浙江省人民出版社から 1999 年に刊行されている。